

# 会派視察 7/29～31 内閣府・高松市・玉野市

7月29日～31日、会派による行政視察を行いましたので報告いたします。

## I 内閣府地方創生推進事務局

### 【視察項目】 国家戦略特区 スーパーシティ構想

内閣府が第198回通常国会へ提出し審議未了で廃案となったが、再提出へ向けた準備中となっている国家戦略特別区域法改正案の「スーパーシティ構想」について伺ってきた。新たな「スーパーシティ構想」は今年度中に基本方針を定め、3～5カ所のエリアを決める方向で準備を進めているとのことであった。

内容はAIやビックデータなど、第四次産業革命における最先端技術を活用した「まると未来都市」を目指した複数分野にわたるスマート化の実現で、各省庁にまたがる規制改革を一体的、包括的に実現するものとなっている。この中で示されている個別分野には、本市に於いてすでに取り組んでいるものや、今後取り組みを計画している分野が含まれており、現時点でのハードルは高いものの可能性はあると考える。

たとえば、キャッシュレス化、行政手続きワンストップ化、遠隔医療・教育、自動走行、自立可能で最適な電力供給等、本市が目指すべき方向性と合致している。事業費用も詳細は未定であるが、国が主体的に手当てする内容が含まれている。すでにモデル都市として、名乗りを上げる準備をしている都市もあると伺っているため、本市も乗り遅れることの無いよう、準備と研究を進める必要がある。

ただこの構想には、まちづくりのビジョンと未来像が描ける強いリーダーシップを備えた首長の存在が必要とされていることから、市長の決断が決定的に重要である。

## II 瀬戸内芸術祭の取り組みと経済波及効果について（香川県高松市・岡山県玉野市）

瀬戸内海の12の島と2つの港周辺で行われる現代アートの祭典として、2010年から3年に一度のトリエンナーレ方式で開催される日本を代表するアートフェスティバルとして知られている瀬戸内国際芸術祭について、瀬戸内海を挟んだ香川県高松市と岡山県玉野市を視察して、開催への取り組みや経済波及効果を伺ってきた。

そもそも瀬戸内芸術祭は、世界的に著名な公益財団法人福武財団が総合プロデューサー、北川フラム氏が総合ディレクターとなって瀬戸内海に面する地域や点在する島々を舞台と

してアート力を借りた瀬戸内の地域再生の取り組みでもある。2010年以降3年に一度開催されており、今回が4回目となる。コンセプトを「海の復権」とし、「“観光”が島の人の“感幸”であること」、「あるものを活かし、新しい価値を生み出す」との考えのもと、アーティストと地域住民、国内外から集うボランティアとの協働によって生み出される作品が、世界からの来訪者との交流を瀬戸内の小さな離島に生み出している。

## 1 香川県 高松市

瀬戸内芸術祭の誘客のメイン施設は直島にある安藤忠雄氏設計の地中美術館であり、観光客のほとんどがこの施設を訪れている。運営は実行委員会形式で香川県知事が会長となり高松市は実行委員会に参加している。今回の開催に当たっては平成29年度から準備が



直島の草間彌生作 「赤かぼちゃ」

進められており、総予算1,276,000千円の内、今年度の予算措置も含めた高松市の財政負担は3か年合計で138,113千円であり、このほかに県の実行委員会への職員派遣を行っている。香川県の瀬戸内海に浮かぶ島々は本州四国連絡橋が開通して以来、特に人口減少・高齢化が進み、島に活力を取り戻したいとの思いから取り組みに参画したとのことである。

2019春会期の来場者は38万人で2016年の25万4000人から増加傾向で、インバウンドも着実に増加しているとのこと、内陸部の観光地への波及効果もあるとのことである。経済効果については2016年開催の報告書には交流人口増加による域内の宿泊施設への効果は認められたが、さらに具体的な効果については調査できなかった。香川県への移住者は2014年以降増加しており、高松市へは2016年177人、2017年183人、2018年290人と増加傾向である。担当者の話ではもともと災害が少なく温暖な気候で自然豊かな住みよい土地柄が芸術祭の開催によって全国的に注目を浴びたのでは、とのこと。また、3年に一度、観光客が集中するため、簡易宿泊施設を運営する若年層の移住者もいるとのことであった。

## 2 岡山県 玉野市

玉野市宇野港会場は、常設の作品も含め、港を中心に作品が展示されている。2010年の開催以降、各種メディアで紹介され、著名なアーティストの作品を目的に、来訪者が増加。玉野市が新たに観光地として認識されることとなった。



玉野市 宇野港で親しまれるチヌ

宇野港周辺で採取したゴミや、不要品を集めてつくったチヌ(クロダイ)

食店来客数は最大4割増の効果を上げている。また、2012年以降、新規創業店舗は約40店舗に上り、中には多数の移住者が新規開業のため玉野市へと移り住んでいる。今後も民泊施設や飲食店の開業が多数計画されており、宇野港周辺の経済への波及効果が認められている。地域活性化への効果としては、瀬戸内国際芸術祭に合わせて開催されるイベント等への地域住民の参加や、地元食材を活かした新たな食のプロジェクトなど、様々

な企画が開発され、開催地としての街の賑わい効果が表れている。

岡山県の観光地としては倉敷市が有名だが、この瀬戸内国際芸術祭を契機に玉野市が、芸術のまち、観光の地として認識され、倉敷市とセットでツアーが企画されるなど、岡山県にとっても新たな観光客層の獲得へと繋がっている。

玉野市としても、観光客増や新規創業者増など経済への波及効果と共に、若い世代の移住定住に依る街の活性化にも繋がっており、瀬戸内国際芸術祭のコンセプトである地域再生が、玉野市に於いて具現化されていることが分かる。

本市でも、芸術祭の開催を望む民間団体が瀬戸内国際芸術祭のプロデューサーや、アーティストとの情報交流を深めており、今後の動きに期待したい。また、具体化に当たっては市民や行政が、どの様に連携すべきかを引き続き調査研究して参りたい。